

ジューシーなナス「サラダ紫」を横須賀から売り込もう!

三浦半島地区事務所

三浦半島では横須賀市の大楠地域の生産者を中心に、農業技術センターが育成したナスの新品種「サラダ紫」を地域の特産野菜にしようと取り組んでいます。

横須賀市の北西部に位置する大楠地域では、以前から夏季にナス・キュウリが栽培され市内や横浜の市場へ出荷されていますが、小規模で地域の特色が発揮できず、何か特徴のある品目が求められていました。

そこで、「サラダ紫」に着目し特産化できないかと取り組み、平成19年に試作したところ、生で食べられるシャキッとした食感と甘くジューシーな肉質、巾着型の特徴のある果形などが地域で評価され、本年は大楠のナス生産者10名が栽培に取り組みました。



「サラダ紫」着果の様子



農業技術センターほ場で技術研修

以前からナス栽培は手がけてきましたが、従来品種と生育特性等が異なることから当センター野菜作物研究部やJAよこすか葉山と連携し、栽培講習会や農業技術センター試験ほ場での技術研修会、現地巡回指導等を重ねながら、「サラダ紫」の安定生産に向けた指導を行ってきました。

また、レシピ集や品種紹介リーフレットの作成配布、市内量販店での実演販売指導など、県民へ「サラダ紫」が浸透するよう販売促進の支援も行ってきました。

本年は5・6月の低温や大雨、7月以降は高温乾燥とナス栽培には厳しい条件でしたが、大きな気象災害もなく、目標に近い出荷量を市場出荷できました。

実演販売では消費者には大変好評でしたが、量販店などでは品種特性が十分浸透していないことも判りました。

次年度は、栽培技術の向上のほかに「サラダ紫」の特性や調理法を消費者や販売店に理解してもらい、生産拡大につなげていく予定です。



7月17日 出荷目合わせ